

Venture

日本を変える
“ニッポン”の
経営者へ

日経ベンチャー

2006
4.

新連載5本!

求道の悦楽

藪内佐斗司

武士道のこころ

山下泰裕

目利き指南

中島誠之助

三国志人物伝

守屋 淳

困った会社 見本市

山本一郎

「社員の満足度」を
高める会社づくり

任せて
ほめて、
一緒に泣く

これがイマドキの“特訓”
ダメ社員を鍛えなおす



「正社員に疲れちゃった
タイプとなんとなく
働きたいタイプ」

「大学の成績表は
いらないから、小学校の
成績表をもってきてください」

「一番優秀な会社や
一番成績のよい営業マンから
保険に入れ」

自分の職場を見渡して、正社員が何人いるか数えてほしい。5年に一度、就業実態の調査を実施している「就業構造基本調査」によれば、2002年の正社員数は全就業者の53%まで低下しているという。となれば、非正社員たちをどう“使う”か、社長の腕が問われるところだ。彼らの心の内は、正社員のように権限移譲というニンジンをつぶらなければ、やる気を起こすほど単純ではない。本書では非正社員を7つのタイプに分け、各々に有効な管理法をまとめている。

正社員時代の終焉

著者：大久保幸夫 出版社：日経BP社
価格：1680円(税込み)

ソニーの名誉会長であり、日本経済団体連合会顧問を務める大賀典雄氏。かつてCBS・ソニー社長時代の採用面接の場で、訪れた学生に向かってそう告げたという。音楽と機械いじりに夢中になった自らの少年時代を回想し、ビジネスの世界で成功する原動力となったのは、結局その頃醸成された“想い”だったと語る。

社員の採用に臨む時、失敗を恐れる余り「何をやらせても無難なタイプ」を選んでしまうのが世の常だ。少数精鋭で勝負する中小・零細企業であれば、なおさら慎重になるだろう。しかし大賀氏は、「幼少期に夢中になったことこそ、その後の人生で役に立つ」と訴える。その信念に基づいて、人を雇い育てることで会社は強くなるという。かつて描いた夢を本書を通してもう一度思い起こしてみてもう一度だろう。

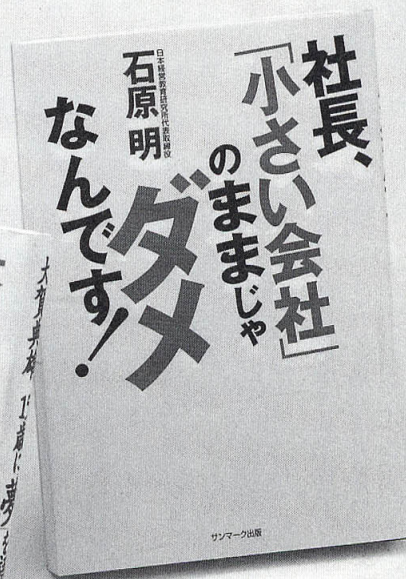
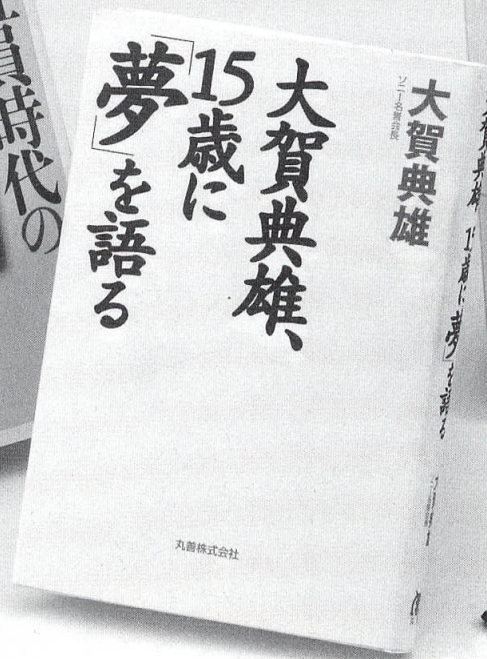
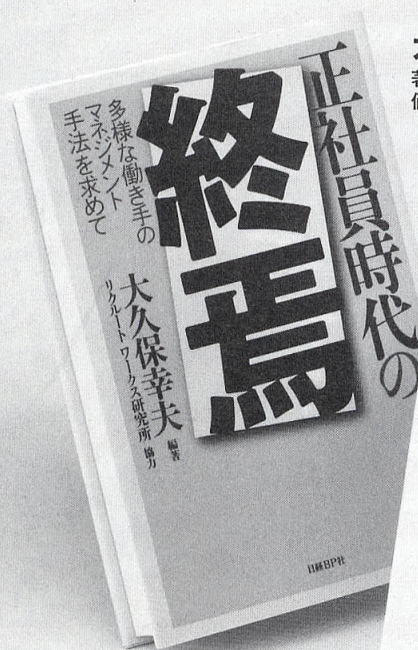
「俺の会社は小さいままでいいんだ」がログセになってはいないか。著者はそれを「成功できなかった自分への免罪符だ」と一喝する。会社は大きくできないのは、経営センスではなく、「大きくするための方法」を知らないことが原因だと指摘。学ぶべきは積極的な投資の方法だと言う。社長たるもの、保険一つとっても「日本で一番よい情報やサービスを得られる会社を選べ」と説く。日々のお金の使い方や活かし方に始まり、社運をかけた投資に至るまで、失敗しないためのノウハウを公開する。

社長、「小さい会社」のままじゃダメなんです!

著者：石原明 出版社：サンマーク出版
価格：1470円(税込み)

大賀典雄、15歳に「夢」を語る

著者：大賀典雄 出版社：丸善
価格：1575円(税込み)



使える一冊、
揺さぶられる一言

BOOKS